

皆様からの協賛を募集しています!!

「第75回全国植樹祭」の開催趣旨にご賛同いただける団体や企業等の皆様と協働・連携した開催となることを目指しております。
開催趣旨にご理解とご賛同をいただき、温かいご支援、ご協力をよろしくお願い致します。



【協賛の種類】

- 1 資金協賛
全国植樹祭事業の実施に要する資金提供による協賛
- 2 物品協賛
全国植樹祭事業の実施に要する物品提供による協賛
- 3 その他協賛
1及び2に該当しない、役務の提供等による協賛

【協賛特典】

協賛規模に応じて、式典への招待、公式HP・SNSへの協賛者名の掲載等、様々な特典でお返しさせていただきます。

【募集期間】

令和7年3月まで



申請方法等について、詳しくは公式HPをご覧ください。



ご協賛いただいた企業・団体等をご紹介します

※令和6年9月上旬現在

本多静六コラム

第2話 林学博士としての本多静六



今回は、静六の林学博士としての主な功績についてお話をします。
明治23(1890)年東京帝国大学農科大学を首席で卒業後、2年間ドイツへ留学しました。ドイツで当時の先進的な西洋の林学を学び、森林や造林が木材生産だけでなく保安、景観などの面でも人々に利益をもたらすことや、国の財政に深く関わることを学びました。
静六が手がけた事業の代表例

あおりけんのへじまちてつどうぼうせつりんとして、青森県野辺地町の鉄道防雪林があります。鉄道防雪林とは、吹雪の中でも鉄道が安全に運行できるよう、雪除けを目的として線路や駅舎沿いにつくられた林のことです。明治24(1891)年、東京・青森間の東北本線が全線開通し、東京から青森までが鉄道1本でつながりました。しかし、青森県内では冬になると、地吹雪のため、列車が立ち往生してしまう問題がありました。この問題の解決策として、静六はドイツ留学の帰りの道のカナダで見学した鉄道防雪林の有効性を、当時日本鉄道株式会社の役員だった渋沢栄一に提言し、採用されたのです。この鉄道防雪林は、鉄道の運行を雪から守るだけでなく、育った木を木材として売却することで収入を得ることで想定し、得た収入は新たな植林の費用に充て、永続的に防雪林や鉄道経営を維持できるよう計画したのでした。

第75回全国植樹祭埼玉県実行委員会事務局

(埼玉県農林部 全国植樹祭推進課)

〒330-9301 埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1
電話 048-830-4306 FAX 048-830-4771



埼玉県 第75回全国植樹祭
公式HP <https://www.pref.saitama.lg.jp/shokujusai/index.html>

公式HP

公式 X @syokujusai_2025

公式 Instagram @syokujusai_2025



第75回

全国植樹祭

埼玉 2025

人・森・川 つなげ未来へ 彩の国

植樹祭だより埼玉

第3号 2024.9

開催日は令和7年5月25日(日)

主会場 秩父ミュージックパーク

サテライト会場 エミテラス所沢、深谷テラスパーク、モラージュ菫蒲

※「サテライト会場」は、式典の模様をライブ中継するほか、ライブステージ、各種PR展示を行い、どなたでも参加できます。

「木製地球儀」巡回展示中

6/17~6/19 越谷市	6/19~6/24 八潮市	6/24~6/27 三郷市	6/27~7/2 吉川市
8/9~8/15 新座市	8/15~8/20 志木市	8/20~8/23 富士見市	7/2~7/5 松伏町
8/1~8/6 朝霞市	8/28~9/2 三芳町	8/23~8/28 ふじみ野市	7/5~7/10 春日部市
7/29~8/1 和光市	7/24~7/29 戸田市	7/19~7/24 蕨市	7/10~7/16 さいたま市
			7/16~7/19 草加市
			川口市

1年前記念イベントから出発した
全国植樹祭のシンボル「木製地球儀」が
県内市町村をまわっています!

今後の巡回行程・展示の様子は公式HPをご覧ください。

植樹祭だより埼玉

第3号 2024.9

お問い合わせ先